

伝統ある、発展する学校の創造

◎ 「チーム筭」で学校改革

視点1：人権教育に根ざした心の環境整備を進める学校

視点2：「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の三本柱を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業を工夫する学校

視点3：豊かなスポーツライフのために健康教育を推進する学校

視点4：保護者、地域、関係諸機関などの教育資源を最大限に活かした体験的な学習を進め、地域を愛し我が母校を誇れる子どもがいる学校

今年度の重点取組 視点1、視点4

◎ 外部人材を積極的に活用し、筭小の特長であるダイバーシティー（多様性）を生かした教育活動を推進することで目指す学校像に迫る。

全教職員が、組織「チーム筭」として「ならぬものはならぬ」との信念をもち、同じ方向で教育活動を行い、凡事徹底を図る。

視点1**豊かな心を育むとともに、規範意識を醸成する**

- 1 自分を大切にするとともに、お互いのよさを認め合い、協力できる子どもを育成
 - (1) 日常の取組の重視：美しい挨拶、語先後礼、教職員が率先垂範、高陵アカデミーによるあいさつ運動、丁寧な呼名
 - (2) いじめ防止への取組：生活アンケートによる未然防止・早期発見・早期対応、組織的対応：担任→学年→校内いじめ対策委員会、hyper-QUを活用
- 2 伝統を重視：月曜朝会での校歌斉唱（6年生の鼓笛演奏）、地域性を活かした図工科の美術館連携等
- 3 多様性を生かした教育活動を推進
 - (1) 年1回のインターナショナルデー、学期1回実施するワールド活動での国際理解教育を推進
 - (2) 日本語学級設置校としての特色を強化、にこにこルーム（特別支援教室）の機能を強化
- 4 規範意識を醸成
 - (1) 学級経営スタンダードの徹底
持ち物・学習ルール・生活ルールを徹底
 - (2) 「ならぬものはならぬ」を全教職員が統一指導
 - (3) ルールありきではなく、自らの頭で考えて行動する子どもを育成（特別活動の工夫）

視点 4

地域を愛し、学校を愛する心を養う

- 1 キャリア教育の推進
 - ◎ 「何のために学ぶか」を考えさせるとともに、学ぶ意欲を高め、子どもの得意な分野をより伸ばす教育を推進
 - ◎ 長所を伸ばすことによって結果として短所を気にせずに、自信をもって生活できる教育を推進
 - (1) キャリアパスポートデー
企業と連携して学年ごとに企業の出前授業を行う予定
 - (2) 保護者やゲストティーチャーを活用して、多様な働き方についての学ぶ場を設定
 - (3) 企業が実施しているキャリア教育プログラムの活用
- 2 教育資源の活用を推進
 - (1) 行政・関係機関との連携
文楽体験、模擬選挙、租税教室などの体験的な学習をさらに拡大
 - (2) 新たな教育課題への対応
プログラミング教育、法教育、消費者教育、がん教育を推進
 - (3) 港区内にある大使館との連携
全国の約50%の大使館が港区にあるメリットを最大限に活用し、大使館訪問や大使館関係者による授業を実施
- 3 地域の行事への積極的な参加
児童・教職員が地域の祭りやPTA行事などに積極的に参加
- 4 学校地域支援体制の確立を準備（地域学校協働本部の活用）
より多くのプログラムを実施するために地域コーディネーターを配置

その他

- 1 学校の教育活動の理解啓発を図り、地域・保護者の協力を得るために、積極的に情報発信を行う。
 - (1) 保護者会や学校ホームページ等を活用し、学校経営の方向性を周知
 - (2) 学校ホームページの充実（給食の献立をアップ）
 - (3) 各種の方法により学校の取組を周知（PTAの「がくぶり」の活用）
- 2 教育活動の改善の迅速化を図る。
 - (1) 評価を短期的に行い、教育活動の改善を早期に実施
 - (2) 学校行事後の反省に基づき、次年度の計画案を年度中に立案し、必要な情報を発信
- 3 学校経営の基本姿勢
 - 学校は組織体として教育活動を行うことで、教育の効果を高めることができる。
 - 「日々学ぶ者のみが教える資格を有する」を踏まえ、教員相互の学び合いを推進する。
 - 「あたり前のことがあたり前にできる」子どもを育成する。